

上司のホンネ 部下のホンネ

なぜ、抱えてしまうのか

「仕事を抱え込むな！」「できないなら、できないと言って！」……

そんなに人数の少ないわが社ですら、こんな言葉をしょっちゅう言っているくらいだから、どこの会社でもこの種の言葉が飛び交うのは無理もない。実際「抱え込み、話のグチをよく聞く。そして、この「抱え込み」問題。結構、奥が深い。いろんなケースがある。上司が抱え込む場合もあれば、部下が抱え込む場合もある。

あるデザイナーの場合。彼の作品が好評で、お客さんのウケもいい。何よりも彼の作品でプレゼンすると通る確率が高い。となると、営業のメンバーは、どうしても彼にやってほしい。彼の会社には3人のデザイナーがいるにもかかわらず、彼のところばかりに仕事が集中する。彼も

「他の人にもやってもらってほしい」と、言えるといいのだけれど、営業に「お前じゃないとダメなんだよ」と、言われると、つい引き受けてしまう。

あけくの果てに睡眠不足で身体を壊してしまった。結果、お客さんにも営業にも迷惑をかけた。

「なんでお前はかり抱え込んでいたんだ」と責められた彼もつらい。

40代の課長。期日までにお客さんに出さなければならぬ見積もりや書類がいっぱい。デスクの女性に頼もうとしたけれど、彼女の上司は自分だけじゃない。彼女が忙しそうで、なかなか頼めなかった。そして「今なら大丈夫かも」と期日の2日前に頼んだところ、「ギリギリになって言わないでください」と彼女にムツとされたらしい。

「あまりにも君が忙しそうだったので」と言えずに、「ごめん」と謝るしかなかったらしい。

「でも、頼みにくいんだよなあ」と彼はなげいていた。

また、ある男性。派遣の女性にヘルプを頼もうとしたら、「わたしはあなたと契約していません。人事を通してください」と言われたらしい。

「確かに契約には書いてあるらしいけど、隣にいるんだよ。しかも、手が空いてそうだったのに……」と彼は嘆いていた。

一番多かった話は「抱え込むって、良いことだとは思っていないけれど、人に教えるよりも自分がやっ



大谷 由里子

おたに・ゆりこ 1963年、奈良県生まれ。85年吉本興業に入社。マネジャーとして活躍、2003年、志縁塾設立。

てしまうほうが早くて、つい抱え込んでしまうんだよなあ」というもの。

痛いほどこの気持ち分かる。人に教えるって、自分の手も止めなければならぬし、倍の時間がかかる。つい自分でやってしまう。

抱え込まないためにはどうすればいいか。やっぱり、考えて行動するしかない。